

# 高岡市立博物館に親しむ会

KA

JI

MARU

# 鍛冶丸

第17号

令和6年  
3月



## 祝 高岡市立博物館に親しむ会結成 10周年

高岡市立博物館に親しむ会 会長 太田 久夫



博物館協議会の委員や博物館の利用者から「博物館に親しむ会」の結成を、晒谷和子館長（当時）に提言されたそうです。館長の一存で決めることができないので、有識者に相談されました。

こういう過程を経て、平成25年（2013）3月6日、博物館事業の講師を務めておられた飛見立郎氏を会長に、本会を結成したのです。

飛見氏が急逝され、筆者が会長に就いた次第です。会の目的は、「新しい博物館づくりに貢献する」ということで、早いもので、結成から10年を迎えることになりました。

親しむ会だけでの運営は大変ですが、いつも博物館の方々の温かい支援があって今日を迎えることができたといえましょう。10年も経ると、初期の段階で事業に参加した高齢の方の姿が見受けられなくなりましたが、若い方の参加も見られるので、この会の存在が理解されつつあるのだと思います。

親しむ会の活動の中で、一番人気のあったのは、「おはなしおじさん」こと樽谷雅好研修部会長の歩く博物館・走る博物館活動であったといえるでしょう。市内ばかりでなく県内外へ出かけても適切な説明で、見聞を広めることができました。彼の急逝は本当に惜しまれることでした。

博物館は、常設展・企画展を開いておりますし、講座の開催、会員対象に古文書の解説講座も開いております。それでも博物館の敷居が高いと思っている方が居られるようで、そういう垣根を取り払い、博物館を利用してもらうようにするのも本会の役割ではないかと思っております。

また、いかにも博物館らしいクリアファイルを作成しております。とにかく本会の事業は、博物館の協力があってこそこの事業であるといえましょう。

今後とも、本会と博物館が手を携えて高岡を学ぶ拠点にしていきたいものです。

（おおた・ひさお）



鍛冶丸創刊号



親しむ会発足記事



たるたに  
樽谷

# 追悼

まさよし  
雅好

## 研修部会長

(1949-2023/ 1/24)



第28回歩く博物館にて

高岡市立博物館に親しむ会 会長 太田 久夫

平成25年(2013)3月、高岡市立博物館に親しむ会が結成されたとき、研修部会長に就かれたのが樽谷さんでした。「歩く博物館」は、博物館での講義が2回、富山市・射水市・金沢市・白山市と市外へ出かけたのを合わせて36回、「走る博物館」は「還暦すぎの修学旅行」と言って、ほとんど県外へ出かけたのが6回。酒好きの樽谷さんらしく、「千保川を呑む」と番外篇が6回ありました。

合計50回も市内はもちろん、県内外どこへ出かけても、立板に水で分かりやすく解説されるのが常でした。樽谷さんの説明を聞きたいために本会の会員になった方もおられるのではないかと考えています。

偉大な生涯学習の講師を亡くしたことは痛恨の極みと言えましょう。

(おおた・ひさお)

## 「オラ、死んだふりしとるだけや」破顔一笑で夢枕に立った

高岡市立博物館に親しむ会 副会長 晒谷和子

今から半世紀も前。樽谷さんが若い頃、家業の魚問屋の仕事を昼で終え、午後からは全くの自由人であった。髭ボウボウで長髪、着古したジーパンの出で立ちで、照れくさそうに「ヨッ」と片手をあげて社会教育課へ現れる姿は、見かけと真逆で妙に人懐っこかった。

当時、「たかおか子どもの本の会」代表として、斬新な工夫を凝らした立体紙芝居を引っ提げ、子どもの文化環境を考える仲間と共に児童会や幼稚園などで上演されていた。ちょっと照れながら「私は魚屋のおっさんです」と言うだけで会場がどっと沸く。一瞬でタルタニワールドに引きずり込む。子どもたちの目が爛々と輝き息をのむ。まさにお話の達人だ。

『高岡の伝承』(高岡市児童文化協会編、1979年)の出版では、古老から聞き集めた民話や昔話を代表執筆者として纏め上げ、6千冊を完売。高岡で類を見ない快挙であった。この経験がさらに『紅葉姫伝説紀行』(桂書房、1985年)へと誘ったのだろう。

その後、益々精力的に土俗民俗学・土俗宗教学を標榜し、現地を歩いて聞き廻り、古文書や文献を徹底調査して独特の論を展開。自力で稼ぐ自営業者だからか、権威・権力を嫌い、何ものにも囚われなかった。ただ自己の頭脳から捻り出す思考に依るのみ。何が飛び出してくるか予想のつかぬ摩訶不思議な魅力を放つ。

ドキドキ感溢れる話術で多くの人を虜にした獅子奮迅の郷土史家・樽谷雅好氏は、老いたる少年のまま人生を駆け抜けた。

天晴れ。

(さらしや・かずこ)



樽谷氏の郷土史の出発点  
《獅子頭》銘「春山」、江戸時代 射水神社所蔵

# 高岡市立博物館に親しむ会における 樽谷雅好先生開催行事の記録

郷土史を訪ねて 1 「歩く博物館」 — 一万歩ウォークで「ふるさと再発見」 —

No	年	月	日	行事名称	No	年	月	日	行事名称
1	2013	9/25		利長墓所の周辺を歩く 附：中川用水①	19	2017	5/9		中世の街道と歴史を歩く
2		10/23		瑞龍寺の周辺を歩く 附：庄方用水・中川用水②	20		9/12		金沢で高岡を捜すー100万石と高岡ー
		11/20		座学Ⅰ 利長墓所の周辺を歩く	21		11/14		「旧・千保川」と「ガメ川」の痕跡を擦る
3	2014	3/15		高岡御車山の巡行路を辿る	22	2018	5/11		米治一の彫刻を幾つか、歩いて鑑賞する
4		4/23		関野神社の周辺を歩く	23		7/13		富山市の寺院に、高岡を垣間見る
5		5/28		大・千保川の川跡を擦る	24		10/12		牧野で南北朝の歴史と文学を歩く
6		6/25		古城公園の城郭を探る	25	2019	5/25		瑞龍寺のルーツー法円寺ーを遡る 高岡宝円寺
7		9/10		万葉線で郷土史を周る①	26		6/29		御旅屋を見て歩いて、今昔を偲ぶ
8		11/5		高岡大仏と高町の路地を調べる	27		9/14		成美校下の獅子舞を、観て歩く
9	2015	①4/30 ②5/1		「高岡御車山祭」を識る	28	2020	9/16		吉久を、歩いて、知る
10		6/3		国泰寺の「開山忌」を聴く	29		10/2		放生津の「築山」を、知る
11		9/5		国吉をバスで旅する		2021	5/19		座学Ⅱ GWに、主に県西部のお祭りを堪能する
12		10/24		伏木の歴史を味わう	30		6/10		伏木往来を半分ほど（米島→江尻）歩く
13		11/14		二上山々麓を遊ぶ	31		10/13		一駅分歩いて、上水道の歴史を眺める
14	2016	5/5		城端曳山祭を観る	32		10/27		成美校下の「路地」を、2時間で…歩いて魅る！
15		6/15		2時間で観光する高岡の郷土史 ①駅北篇	33	2022	4/23		二上射水神社の祭礼を鑑る
16		9/21		雨晴海岸と太田を徒く	34		5/26		小杉町を少し歩いて、歴史と文化を知る
17		10/19		赤丸の浅井城・浅井神社を探る	35		6/23		山町筋と金屋町の「中間地帯」を探索する
18		11/16		万葉線で郷土史を周る②	36		10/20		松任を、駅前で見巡る

郷土史を訪ねて 2 「走る博物館」 — 貸切バスで「還暦すぎの修学旅行」 —

1	2017	6/13		越中の大仏ー呉西の五大仏ーを拝す
2		10/10		勝興寺と一向一揆の歴史を学ぶ
3	2018	6/8		野田山「前田家墓所（利長と満姫）」に臨む
4		9/14		「加賀騒動」を、石川県ー加賀・能登ーで知る
5	2019	6/6		瑞龍寺のルーツー法円寺ーを遡る①越前法円寺
6		8/28		芭蕉「奥の細道」／両越国境から高岡まで



第31回歩く博物館にて

郷土史を訪ねて 3 「ふるさとを呑む」 — 千保川を呑む+番外篇 —

1	2014	10/28		源流域篇 加賀騒動と五箇山【三笑楽】
2	2015	9/16		上流域篇 天正大地震と、千保川【立山】
3	2016	11/9		中流域篇 中世ー越中ーの荘園【若鶴】
4	2017	10/24		下流域篇 高岡の花街と、遊郭【勝駒】
5	2018	10/26		小矢部川ー福光の、中世～現代【成政】
6	2019	11/15		白山水系ー加賀馬場に迫る【天狗舞】



第32回歩く博物館にて

樽谷先生、本当にありがとうございました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 第1回 國泰寺と坐禅とたけのご料理

高岡市立博物館に親しむ会会員 大菅 陽子

今年、新たな試みで、高岡市内の主要三寺院を巡る企画がありました。

第1回は、「國泰寺と坐禅とたけのご料理」でした。



法堂と月泉庭

私は実は今まで一度も國泰寺に行った記憶がありませんでした。高岡から氷見に行く途中に、車の中で毎回「あそこに國泰寺があるんだよ。」と、子供の私は家族に聞かされていました。いつか國泰寺に連れて行ってもらえるものだと思い込んでいましたが、もう四十代になっておりました。私はいつも気にかかっており、いつか行きたいと願っていたので、今回の嬉しい機会を逃さずに参加させていただきました。

國泰寺は、臨濟宗國泰寺派の大本山です。大本山というだけあって、とても大きな敷地でお庭もあり、どこか京都を思わせるような風情や安堵感がありました。



今ではコロナ禍の影響で修行僧がお一人とお聞きしましたが、この、「歩く博物館一郷土の歴史・文化を訪ねる」では、坐禅の体験をさせていただきました。坐禅は足を組み背筋を伸ばし、目線に気を付け、動いてはなりません。自分の思考とつき合いながら、自分からお願いをして警策けいさくで肩を二回たたいていただきました。どこか、雑念がふき飛んで気分一新 心地良い感覚を得ました。

また、普段は立ち入り禁止の部屋にも案内していただきました。天井画もあつたり、非公開の宝物もあつたり、多くの位牌も供養されていました。国の政治の主軸の流れを作った素晴らしい人物の紹介



坂本副司様のご説明

もしていただきました。昔、天皇の教育係であった方ともご縁があったそうです(山岡 鉄舟 1836～88)。指導者になるべき人物を育てるとは並大抵の教育者ではなかっただろうと感じさせられました。

そして、國泰寺発祥のたけのご料理です。以前は國泰寺内でたけのご料理がふるまわれていたのですが、現在は國泰寺のすぐ近所で美味しいたけのご料理をいただけます。

また、大みそかの除夜の鐘や仏足石も拝見し、身近にも感じました。立派な利生塔も拝見し、さすがだと思いました。

私は、今も多くの国の宝物が眠る國泰寺にもっと照明ひかりが当たり、皆様にお知らせし、実際にたくさんの参拝客の方々にお越しいただければいいなと願いました。ありがとうございました。

(おおすが・ようこ)



三門前にて

## 第2回 しょうこうじ 勝興寺と国庁跡を巡る

元高岡市立博物館副館長 柴田 和宏

天候を非常に危惧していた前夜が嘘のような快晴、しかも朝から大変な暑さとなった梅雨のさなかだった。

遡ること7年前は事務局を担当していた。故 樽谷雅好 講師と色々打ち合わせ、やり取りしながら、歩く・走る……ついこの間のように思い出された。

そのような懐かしさも感じながら、このたび参加した。

今回の研修先は高岡市伏木地区で、この「歩く博物館」の決め事である、半日程度の



行程、という前提を踏まえ2か所が厳選され、外すことの出来ないところの高岡市が誇る三大名刹にして国宝である「勝興寺」に加え、伏木北前船資料館を訪れるという企画である。

それぞれの場所での説明者(講師)は、フリーアナウンサーの相本芳彦氏と公益財団法人 勝興寺文化財保存・活用事業団 専務理事 高田克宏氏だが、当方にとってはお二人とも旧友(日本が高度成長期の後半頃に机を並べた。)であり、懐かしさも感じながら参加させてもらった。

そして何と、合流地点である JR 伏木駅では相本氏にお迎えをいただき、恐縮至極であった。

最初の訪問先は北前船資料館である。その道すがら、同資料館の背後(海岸側)はその昔射水河(小矢部川)が迫っていたと聞き驚く。

現在資料館となっている秋元家は、元来「本江屋」という小さな宿であったが、のちに廻船問屋として繁栄したとの由、このため、いわゆる七軒問屋ではない。江戸時代後期に築造された二階建の蔵には、伏木湊の変遷や交易・通商で栄えた往時の航海用具、生活用具などが展示されており一見の価値がある。

また港湾の様子を見守ることができる「望楼」が

残っており、是非、登楼していただきたい。

さて資料館を後に、勝興寺を目指し国庁跡(と言われる)付近を歩く。道中、大伴家持像に逢い思わず手を合わせる。

ほどなく勝興寺である。今回の訪問前日にアルバムを取り出し、小学生の時の遠足(今では「校外学習」というらしい。)で訪れ撮影したであろう当時の白黒写真を見たのだが、それと寸分たがわぬ背景を目にし、流れた時の永さと自分の体形の変化に大いに郷愁を感じた。

勝興寺の建造物群は、近世真宗大寺院の伽藍の様相を今に伝える貴重な遺産とされており、そのすべてが日常を忘却させてくれるほど圧倒され、身が引き締まる荘厳な佇まいである。二十数年の長きにわたる修理修復工事に携わられた熟練棟梁たちの会心作に改めて敬服する。

今回は、通常拝観できない「御霊屋」や「経堂」も見学させてもらうことができ、関係各位の配慮に改めて感謝申し上げ、また、当日は自己の都合で講師はじめ事務局、そして参加者の皆さんにろくな謝意もできぬまま失礼したことをこの場を借りてお詫び申し上げたい。

高岡市立博物館を親しむ会の更なる発展と併せ、多くの歴史を愛する皆さんが、諸行事に積極的にご参加されることを願ってやまない。

(しばた・かずひろ)



本堂を背景に

## 第3回 <sup>すいりゆうじ</sup> 瑞龍寺の魅力に触れる

高岡市立博物館に親しむ会会員 釜本 まゆ美

高岡の三寺院巡りのトリは瑞龍寺さんです。あいにくの小雨の中での開催でしたが、入口近くまで、四津谷 道宏住職様の出迎えを受け、ご住職の案内で拝観できる喜びに心おどらせスタートしました。山門をくぐり、そこから見る伽藍を一望し、今更ながらにその雄大さに圧倒されました。兄利長公の菩提を弔うため、弟利常公が約20年の歳月をかけて造営されたと聞き、二人の関係に思いを巡らせました。利長公の50回忌に完成したとのこと。仏殿まで歩を進める石畳は、整然と戸室石が敷き詰められています。



仏殿にて

仏殿の中に入り、ご本尊の釈迦三尊像に手をあわせました。普段は結界で仕切られている場所の中へ、特別に入れていただき、真下から天蓋を見上げると、それはそれは美しい飛天が描かれ、あまりの美しさに、

会員一同首が痛くなるほど見上げていました。ご住職、ありがとうございます。左後方には、達磨大師が祀られており、そのお姿はマントを羽織る異国風の出で立ちです。

仏殿を後にし<sup>はっとう</sup>法堂へ向い、そのまま石廟へと進みお参りしました。静寂な佇まいで、もし私ひとりだったら少々怖いかなと思ったりしました。

法堂入口の石畳で、ご住職はこの場所は昔はお殿様しか入れなかった特別な空間だったのでと話され、その場に<sup>ひざまず</sup>跪き五体投地をされました。近くにいる者も、つられるように思わず跪きました。確かにこの目線で見ると、ご位牌をあたかも鳥居越しに拝見するかのようで、上の方まで拝むことができます。皆さんも一度やってみたらいいですよ。この頃になるとご住職のお話は一段と熱を帯び、遠く戦国の世に私たちをいざなって下さいました。

続いて山門上部の特別拝観です。すごく急な階段で、両手で手摺りを持ち、ゆっくり登ります。登りきったとたん開ける情景、感激です。上から見る伽藍の素晴らしさ、又、遙か遠くまで見渡せる景色、



利長公墓所にて

まさに天下人の気分です。羅漢様にもしっかりお会いしてきました。

この後は「あいの風」の清水

さんと中島さんの案内で、八丁道を通り前田墓所へと向かいます。利長公33回忌の完成で、多くの石灯籠も見所で、微に入り細にわたり教えていただきました。又利長公が茶毘に付された場所には、三重塔型石灯籠が1対置かれています。少し寂しく、近づいてはならないような心持ちになりました。でも不思議ですね、何故火葬されたのだろうとついつい考えてしまいます。

朝からの雨も終盤は晴天、何でも研修部会長の清水さんは晴れ女らしい。今回のコースを巡り、その歴史を間近に感じ、高岡市民として誇らしい思いに改めて浸ることができました。でもそれ以上に、親しむ会会員でよかったとしみじみ思いました。お世話になりました。感謝感謝です。

(かまもと・まゆみ)



山門を背景に

## 本年度就任 新部長ごあいさつ

ワークショップ部会長 西 範子

「高岡市立博物館に親しむ会」が、平成25年(2013)に設立され満10年。当時から、博物館茶室「松聲庵」腰掛待合にて「抹茶を楽しみませんか」をテーマに呈茶をしております。春、秋で各4回、日程等は、開催行事のご案内ほか博物館ホームページに掲載されますので、皆様のお越しをお待ちいたしております。

(にし・のりこ)

研修部会長 清水 静子

研修部会の主な行事は、「歩く博物館」です。日頃、何気なく生活している歴史ある高岡の町並みを、自分の足で歩いて、歴史や文化を身体で感じとれたらと思います。市民の中には歴史や文化に詳しい方が多数おられますので、講師にお願いして知識を広め、高岡の歴史を楽しみたいと思います。

(しみず・しずこ)

広報部会長 土肥 慶一郎

広報部会の主な役割は、会報「鍛冶丸」の発行です。皆様にお届けする本誌が、高岡の歴史、文化や暮らしを見つめ直す「高岡学」の資料となるよう部会員と博物館事務局とが連携して親しみやすい紙面づくりに努めます。更なるご支援ご協力をお願いします。

(どい・けいいちろう)

令和5年(2023)11月29日(水)・12月1日(金)

## 版画講座一木版画で年賀状を作ろうーを受講して

高岡市立博物館に親しむ会理事 本保 澄雄



博物館で開催された、木版画で年賀状を作る講座を受講しました。これで4年連続受講となりました。

講師は県内木版画第一人者、水上悦子先生。

「博物館に親しむ会」の理事でもありません。先生の人柄に惹かれ毎年参加しています。親切丁寧に教



えてくださいます。受講者は全員で7名でした。出来上がった作品を見てお互いに良かった点や苦労した点など話し合っていました。和気あいあいとした雰囲気でした。

私にとって年賀状の版画彫は年中行事の一つ。40年以上版画年賀状を続けています。自己流で彫っていたので水上悦子先生から教わる事が多くありました。特に、摺り込み刷毛は版木に垂直にあて、細かく回すこと。年賀状には少し湿りを持たせると色がよく載ることなどです。ありがとうございました。

私の年賀状を受け取った人が「あいつまだ元気であるな。相変わらず下手な版画を彫っているな。」と思っていたら幸いです。(ほんぼ・すみお)



受講された皆さんの作品

● 令和5年度 高岡市立博物館に親しむ会 事業報告 ●

- 総会** 4/20(木)13:30~14:00
- 講演会** 「北陸の工芸 ー高岡と金沢を中心にー」 講師：唐澤 昌宏さん (国立工芸館長) 4/20(木)14:00~15:30
- 歩く博物館** ー郷土の歴史・文化を訪ねるー「高岡の三寺院巡り」
- 第1回「國泰寺と坐禅とたけのご料理」 5/12(金) 9:45~13:00
- 第2回「勝興寺と国庁跡を巡る」 6/28(水) 9:15~13:30
- 第3回「瑞龍寺の魅力に触れる」 10/5(木) 9:45~12:00
- 呈茶席** 4/22(土)、5/13(土)、20(土)、27(土)、9/16(土)、30(土)、10/7(土)、14(土) いずれも11:00~15:00
- 版画講座** ー木版画で年賀状を作ろうー 講師：水上悦子さん(理事) 11/29(水)、12/1(金)13:30~15:00
- 「古城公園展望台」屋上開放ボランティア** 3/31(金)、4/1(土)、2(日)いずれも13:00~15:00
- 高岡古文書ボランティア** (古文書の調査・整理) 4/14(金)、5/19(金)、6/17(土)、7/15(土)、8/19(土)、9/15(金)、10/20(金)、11/18(土)、12/16(土)、令和6年(2024)1/20(土)、2/17(土)、3/16(土)(予定) いずれも14:00~15:30

本年もクリアファイルを作成しました!

図柄は、左から『<sup>にじゅうしはいじゆんばいすえ</sup>二十四拝巡拜図会』(1803)より「雲龍山勝興寺」と『<sup>だいにっぽんぶつざんすえ えちゅうのくにかなものざいくのず</sup>大日本物産図会「越中国鐵物細工之図」』(1877)の二種。令和5年度(2023)登録の全会員に配布したほか、ミュージアムショップで販売しています。(一部200円)



雲龍山勝興寺



越中国鐵物細工之図

● 令和6年度 会員募集のご案内 ●

あなたも会員となって、郷土への理解を深め、市民に親しまれる新しい博物館づくりに参加してみませんか。

- 主な活動**
- ・博物館の諸活動の協力、支援
  - ・高岡地域の歴史と文化に親しみ、互いに親睦を図る活動
  - ・ミュージアムショップの運営 ほか

- 年会費**
- ・一般会員 1口 1,000円
  - ・賛助会員 1口 5,000円 \*お一人さま何口でも可

- 会員の特典**
- ・企画展、特別展、講演会などのご案内
  - ・歩く博物館、走る博物館行事への参加、高岡古文書ボランティアでの活動、呈茶席などのご案内
  - ・会報「鍛冶丸」の送付・郷土学習講座等の受講料割引
  - ・図録の進呈(賛助会員のみ)

**■申込方法**

- 入会申込書に必要事項を記入のうえ、会費を添えて「高岡市立博物館に親しむ会」事務局へお越しください。入会申込書は「高岡市立博物館に親しむ会」のホームページに掲載しております。
- 郵便振込みをご利用の場合は、振込用紙「払込取扱票」に以下の項目をご記入の上、郵便局にてお振込みください。なお、振込手数料は各自でご負担をお願いいたします。\*電信振替については、ホームページをご覧ください。

- ・口座記号：00760-8
- ・口座番号：100749
- ・加入者名：高岡市立博物館に親しむ会
- ・金額：年会費の金額
- ・ご依頼人：郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、電話番号、性別、年齢

親しむ会では、各種部会のメンバーを募集しています。

1. 研修部会 事業企画、歩く博物館等サポート
2. 広報部会 会報「鍛冶丸」の作成
3. ワークショップ部会 呈茶席運営・サポート
4. 高岡古文書ボランティア部会 古文書の整理等



<編集後記> 令和6年能登半島地震(1月1日発生)では、富山県内、高岡市内においても甚大な被害がありました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

高岡市立博物館に親しむ会 会報「鍛冶丸」第17号

■発行日 令和6年(2024)3月15日

■編集 高岡市立博物館に親しむ会 広報部会

(部会長：土肥、部会員：宇於崎、般若、松原、水上、山井、四津井)(五十音別)

■事務局 〒933-0044 高岡市古城1-5 高岡市立博物館内

TEL 0766-20-1572 FAX 0766-20-1570

URL <https://www.e-tmm.info/> E-mail [info@e-tmm.info](mailto:info@e-tmm.info)